ISSN 1341-6928

串本海中公園 マリンパビリオン

2025. 3 Vol.54, No.2

モクズショイ

***Camposcia retusa* Latreille, 1829**

房総半島以南に広く分布し、水深 50m 程までのサンゴ礁域、岩礁域などに生息する。甲は平滑で西洋梨型、甲幅は大きいもので 3cm ほど。体中に先の曲がったかぎ状の毛が生えており、海藻やカイメンなどをくっ付けて擬態している。串本周辺ではイセエビ刺し網漁にてよく混獲される。浅海の転石裏などでも見つけることが出来るが、稀に体表にイラモ（クラゲの一種）を付けているものもいるため注意が必要。　　クモガニ科 モクズショイ属　中村 公一

串 本 海 中 公 園 セ ン タ ー

2023・2024 年の串本町近辺でのウミガメ上陸・産卵・漂着状況

吉田 徹

串本町内及びその近辺での 2023 年 1 月から 2024 年 12 月までのウミガメ上陸・産卵及び漂着・混獲状況を報告する。

●調査について

まず上陸・産卵調査では、串本町内の主要な産卵浜である上浦海岸・橋杭海水浴場・田原海水浴場については日中の定期的な痕跡調査を行い、それ以外の浜については通報時に調査を行った。調査期間は 6 月初旬から 7 月末までの 2 か月間で、1 週間に 1 度ほど日中に上陸・産卵の痕跡を調査した。

漂着・混獲に関しては、基本的に通報を受けた場合にのみ調査を行った。

●上陸・産卵結果

2023・2024 年共に調査範囲内ではウミガメの産卵は確認されず、明確な上陸痕跡も発見できなかった。

近年串本町ではウミガメの産卵はめっきり見られなくなってしまい、これで 2021 年以降 4 年連続産卵回数 0 となった。漁師からの目撃情報や後述の漂着情報で串本付近でのアカウミガメの出現はちらほらとは確認されているが、産卵へは結び付いていないようだ。アカウミガメの産卵回数低迷は 2018 年以降全国的な傾向である。しかしながら、串本近隣地域では若干ながら産卵回数が増加している砂浜もあるため、串本でも来年以降に期待したい。

●漂着・混獲結果

2023 年 1 月～12 月に通報により確認されたウミガメの漂着・混獲は、アオウミガメ 8 件、タイマイ 1 件の計 9 件、2024 年 1 月～12 月では、アカウミガメ 3 件、アオウミガメ 5 件の計 8 件と件数はそれぞれ例年並みであった。混獲は 2024 年 3 月アカウミガメの一件のみで、その他は全て漂着であった。

2023 年・2024 年合わせて 17 件の内、約 3/4 の 13 件がアオウミガメであった。アオウミガメは、最小成熟甲長である 800 ㎜を超えるものは 2 個体のみで、ほとんどは串本付近でよくみられる未成熟サイズであった。

アカウミガメは 3 個体が出現し、全て甲長約 700 ㎜と最小成熟甲長並であった。甲長と出現時期から見て繁殖のために串本近海に訪れたのだと思われる。また、2024 年 1 月の個体は、数日後死亡したため解剖した結果、生殖巣から雄だと推定された。2024 年 3 月の個体は、定置網で混獲され生存していたためそのまま放流されたが、後肢と甲羅後端？に標識が装着されているのが確認されたが、残念なことに番号は確認できなかった。

タイマイは小型の個体が 1 件だけ確認され、串本付近では稀に同様のサイズが見られている。

また、近年串本付近でよく見られる頭部のみを負傷した漂着個体は、今回も 2023 年に 2 個体、2024 年には 5 個体見られている。

表．2023年・2024年串本町でのウミガメ混獲・漂着情報

	発見状況	発見日	場所	種	生死	漁法	甲長(mm)	甲幅(mm)	体重(kg)	標識	備考
1	漂着	2023年4月3日	串本町出雲港	アオ	死		747	575	-	なし	
2	漂着	2023年5月3日	串本町高富	アオ	死		約500	-	-	なし	
3	漂着	2023年7月9日	串本町高富	アオ	生		442	383	-	なし	頭部負傷
4	漂着	2023年8月9日	串本町高富	アオ	死		約400	-	-	なし	腐敗し頭部四肢なし
5	漂着	2023年9月28日	串本町住崎	アオ	生		550	-	-	なし	
6	漂着	2023年9月28日	串本町袋港付近	アオ	死		703	522	-	なし	雌雄不明
7	漂着	2023年10月15日	串本町上浦海岸	アオ	生		555	450	-	なし	頭部負傷
8	漂着	2023年10月25日	串本町田並付近海岸	タイマイ	死		375	330	-	なし	
9	漂着	2023年11月20日	那智勝浦町宇久井地玉の浜	アオ	死		460	400	-	なし	
1	漂着	2024年1月18日	串本町上浦海岸	アカ	生		706	571	53	なし	頭部負傷　水族館搬入後数日で死亡　生殖巣から雄と推定
2	混獲	2024年3月24日	串本町樫野　弁天大敷	アカ	生	定置網	約700	-	-	あり（番号不明）	混獲時黄色のプラタグを確認するも番号は不明　そのまま放流
3	漂着	2024年5月4日	串本町津荷付近海岸	アカ	死		692	583	-	なし	形態から雌
4	漂着	2024年5月26日	串本町上浦海岸	アオ	生		約500	-	-	なし	頭部負傷
5	漂着	2024年7月27日	串本町袋付近海岸	アオ	生		745	590	-	なし	頭部負傷　パピロマあり　形態から雌？
6	漂着	2024年7月28日	串本町上浦海岸	アオ	死		約450	-	-	なし	腐敗大　頭部脱落
7	漂着	2024年7月29日	串本町袋付近海岸	アオ	生		988	765	-	なし	頭部負傷　形態から雌？
8	漂着	2024年8月24日	串本町上浦海岸	アオ	生		約850	-	-	なし	頭部負傷　形態から雄？

海中展望塔に集まる魚　2024 年

佐久間　夢実

当館の海中展望塔における出現魚類の観測について、2024 年の結果を報告する。本年も前年に引き続き、魚類担当である筆者が観測を行った。本年観測した魚類の出現種数を表 1 に示す。表の中の観測時の出現個体数については、本誌（Vol.50, pp.11-13）にて説明しているため省略する。

本年の観測データ：2024 年に観測を行った日数は 167 日であった。年間の総出現種数は 129 種で、そのうち通年出現した種は 22 種であった。観測開始当初から本年までの総出現種数の平均値は 132 種で、本年は 3 種下回る結果となった。前年 2023 年との共通種は 75 種で、本年の観測で初記録となった種はイチモンスズメダイのみであった。各月の総出現種数の最低値は 3 月の 38 種で、最高値は 11 月の 78 種であり、一年間の各月の総出現種数は平均 59 種が見られた。

次に、各月の一日における出現種数の平均値と観測時の水温を図 1 に示した。最も出現種数が少なかったのは 3 月の 17 種で平均水温は 16.4 度であった。最も多かったのは 9 月の 32 種で平均水温は 27.8 度であった。9 月と比較し 3 月に出現しなかったのは主にフエダイ科、チョウチョウウオ科、スズメダイ科数種、ベラ科数種、イソギンポ科、クロユリハゼ、ニザダイ科数種、タイワンカマスなどであった。これらは水温の低下と共に減少しており、図を見ると年間の出現種数の変動も概ね水温の変動と並行していることがわかる。また、1 月から 3 月にかけて出現種数は 25 種から 17 種へ大きく減少しており、平均水温は 17.1 度から 16.4 度に低下している。この約 1 度の温度差が出現種に影響を与えている。

本年の魚種について：前年の後日談（Vol.53 pp.20-22）で報告した、ニシキブダイの幼魚と思われる種が本年も確認された。未だ捕獲ができておらず、種の同定ができていない。そのため、本年の報告ではブダイ科の他種と区別するために、アオブダイ属の一種として記録した。またトウゴロウイワシ科は、目視での同定は難しいためトウゴロウイワシ科の一種としてまとめた。

本年観測された魚種を見てみると、出現数が多く毎年観測されていた、クロホシイシモチ・アカヒメジが観測されなかった。特にクロホシイシモチは 5 月頃になると繁殖期となり、過去には展望塔の窓からペアで泳ぐ姿がよく観察されていた。この 2 種は同年内に展望塔付近での出現を確認しているため、本年の観測中に窓から見える範囲で出現しなかっただけであると考えているが、例年に比べると少なかったようにも思える。錆浦での今後の変動を注視していく。

また、2020 年から本年まで、ブチススキベラとイシガキフグの出現数が増加し続けている。ブチススキベラに関しては幼魚・成魚共に観測されているが、特にメスの成魚の出現数が増えている。メスは限られた範囲内で餌を探すとされているため、展望塔付近で良い餌場が存在するのかもしれない。

イシガキフグは、本来単独で暮らしているが、多いと一回の観測中に 5～6 匹が出現したこともあった。一度だけ 2 匹が寄り添っていたことがあったが、大抵の個体は互いを干渉せず、のんびりと水中を泳いでいたため、繁殖のために集まっているわけではないと考えられる。また通年観測できたため、錆浦での個体数が増えているのかもしれない。

他にも、タカノハダイとミギマキの交雑種と思われる種を観測したが、この話については次回以降に詳しく報告する。

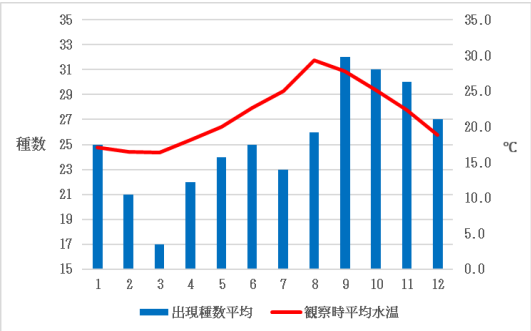


図 1. 各月の一日の出現種数と水温の変動

表1. 2024年に観察された魚種と出現数の平均値一覧

出現時の個体数	1個体	1	2～10個体	2	11～30個体	3	31～60個体	4	61個体以上	5							
No.	種　名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	出現月数
1	ワカウツボ									1				1
2	モヨウモンガラドウシ							1						1
3	キビナゴ	5	5	5	5	5	5	5		5	5	5	5	11
4	ゴンズイ										3	2		2
5	アカエソ	1								1	1	1	1	5
6	テリエビス								1	1				2
7	ナミマツカサ	1						1						2
8	ヘラヤガラ						1	1	1	1	1	1	1	7
9	アオヤガラ	2	2	1						2	2	2	2	7
10	ボラ	1	3				1	2	1		2	3	2	8
11	トウゴロウイワシ科の一種	5	5			2		3	5	5			5	7
12	オキザヨリ									2	2			2
13	カサゴ	1	1	1	1	1	1		1		1		1	9
14	ハナミノカサゴ					1					1	1	1	4
15	ヒラスズキ	2	2			2			1			1	1	6
16	スジアラ						1	2	1	1		1		5
17	アカハタ	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	12
18	キンセンイシモチ	2	1		1	1	2	1					1	7
19	オオスジイシモチ	1	2	2	1	1	1	1			1	1		9
20	ブリ											1	2	2
21	カンパチ										1	1	2	3
22	ギンガメアジ											2		1
23	アジ科の一種				1							3		2
24	クロホシフエダイ							2	2	2				3
25	フエダイ						2	1	2	1				4
26	クロサギ					2		2						2
27	イサキ					1	1	1			1			4
28	コロダイ	1				1	1	1	1	1	1	1		8
29	コショウダイ				1								2	2
30	フタスジタマガシラ											1		1
31	ヘダイ	1		1		2	1	1			1		1	7
32	クロダイ			2	1		1		1	2	1	1		7
33	イトフエフキ											2		1
34	ハマフエフキ						1							1
35	オジサン	1	1						1	1	1	1	1	7
36	ホウライヒメジ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12
37	オキナヒメジ	2	1	1				1	1		1			6
38	ミナミハタンポ						5							1
39	ヤリカタギ	1	1							1	2	2	1	6
40	スミツキトノサマダイ							2	1	1	1	1	1	6
41	トゲチョウチョウウオ	1	1						1	1	1	1		6
42	トノサマダイ	1	1						1	2	1	1	1	7
43	フウライチョウチョウウオ									1	1	1	1	4
44	アケボノチョウチョウウオ									1	1	1	1	4
45	チョウチョウウオ	2	1	1	2	2	3	3	3	3	2	2	2	12
46	ミゾレチョウチョウウオ	1	1											2
47	シラコダイ												1	1
48	サザナミヤッコ								1	1				2
49	ナメラヤッコ											1		1
50	オキゴンベ							1			1	1	1	4
51	サラサゴンベ							1	1		1			3
52	ヒメゴンベ		1		2		1							3
53	ホシゴンベ							1	1		1			3
54	タカノハダイ	2	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	12
55	ミギマキ	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	11
56	タカノハダイ×ミギマキ					1	1							2
57	クマノミ	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	12
58	ササスズメダイ									1				1
59	マツバスズメダイ											2		1
60	シコクスズメダイ									1	1	1		3
61	アマミスズメダイ					2					1	2		3
62	タカサゴスズメダイ								1			2		2

表1. 2024年に観察された魚種一覧（続き）

No.	種　名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	出現月数
63	ミツボシクロスズメダイ							1						1
64	ハクセンスズメダイ	1										1		2
65	イシガキスズメダイ	1	1										1	3
66	ロクセンスズメダイ												2	1
67	オヤビッチャ	1	1	1	1	2	1	2	2	2	1	2		11
68	イチモンスズメダイ									1				1
69	ソラスズメダイ	4	3	3	3	3	4	4	5	5	4	4	4	12
70	ナガサキスズメダイ								1	1	1	1		4
71	セダカスズメダイ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12
72	イシダイ	1	1	1			1	1			1	1		7
73	イシガキダイ				1	1	1	1		1	1	1		7
74	テンジクイサキ	2	2	2	1	2	1	2	2	2	1	2	2	12
75	ノトイスズミ	2	3	3	2	2	2	2	2	2	1	2	2	12
76	カゴカキダイ							2		1				2
77	オキナメジナ		1			1		1	2	2				5
78	メジナ	4	4	4	3	5	5	5	5	5	5	5	4	12
79	クロメジナ	1	1	2	3	2	1	2		2				8
80	ブチススキベラ	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	12
81	クギベラ	1	1								2	1	1	5
82	ホンソメワケベラ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12
83	アカササノハベラ	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	11
84	カミナリベラ	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12
85	セナスジベラ									1				1
86	ニシキベラ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12
87	コガシラベラ							2	2	2	2	2	2	6
88	ヤマブキベラ	1	1		1		1	1	1	1	1	1	1	10
89	オトメベラ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12
90	イナズマベラ												1	1
91	カンムリベラ								1	1	1	1	1	5
92	ブダイ	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	12
93	ブダイ科の一種	1												1
94	アオブダイ				2	1	1	2	1	1	2	2	1	9
95	アオブダイ属の一種									1	1	1	1	4
96	ヒブダイ	1		1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	11
97	ヘビギンポ		1	1	1		1							4
98	ニジギンポ	1								1				2
99	カモハラギンポ					1	1	1	1	1	2	1	1	8
100	ミナミギンポ		1		1	1	1	1	1	1	1	1		9
101	テンクロスジギンポ									1				1
102	クツワハゼ								1					1
103	クロユリハゼ						3	2	2	2				4
104	クロユリハゼ科の一種							2						1
105	アイゴ	1	1	1	2	2	2	1	1	2	1	2	1	12
106	ツノダシ	2	2		1	1	1		2	2	2	2	2	10
107	ニザダイ	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	12
108	テングハギ					1	1	1		2				4
109	ミヤコテングハギ									1	1			2
110	ナガニザ	1	1					1	2	1	2	2	1	8
111	ニジハギ												1	1
112	ニセカンランハギ					1	2	1				1		4
113	アカカマス			2										1
114	タイワンカマス					5	3			3	5	4	5	6
115	カマス科の一種							3	2					2
116	スマ											2	2	2
117	ヒラメ												1	1
118	ノコギリハギ									1	1	1		3
119	カワハギ				1						1		1	3
120	ウミスズメ	1	1	1		1							1	5
121	シマウミスズメ	1				1		1			1	1	1	6
122	ミナミハコフグ										1	1	1	3
123	ハコフグ	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	12
124	キタマクラ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
125	クサフグ				1								1	2
126	サザナミフグ					1								1
127	ハリセンボン	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
128	ネズミフグ	1	1	1	1				1		1	1		7
129	イシガキフグ	2	1	1	1	1	2	2	1	2	2	2	2	12
	出現種数	57	52	38	44	52	55	64	60	72	73	78	68	

潮岬沖における深海性魚類の採集の試み

大西　遼

串本町潮岬沖は海岸から約 2 キロ離れると水深 200m（深海は 200m 以深）を越える急峻な海底地形を形成しており、多種多様な深海性魚類の生息が予想される。近年、串本沖では小型の深海性魚類の採集を目的とした通称「深海小物釣り」と呼ばれる釣りが研究者や愛好家の間で盛んに行われており、水深 100-200m の岩礁に生息するハナダイ類をはじめとした珍しい魚が多数採集されている。それにより生息している魚類が少しずつ把握されてきているが、昨年には潮岬沖で採集された日本初記録のエンビサクラダイが報告されるなど（松尾ほか，2024）、まだまだ未知の水深帯である。

当館では 1971 年の開館以降、串本町の魚類相の調査を継続して行っており、本誌ではこれまでに 1000 種類近い魚類が報告されている（大西，2024）。しかし、そのほとんどは浅海性魚類であり、深海性魚類に関する知見は乏しい。

今回、潮岬沖の魚類相調査と当館における飼育展示を目的とした深海小物釣りを行ったので、簡単に紹介する。

深海小物釣りの仕掛けと釣り方について：仕掛けは自作した胴付（5 本針）に錘 120 号を使用した。餌はオキアミやキビナゴの切り身を使用した。釣り方は至ってシンプルで、錘を海底まで落とし、魚が食いつくのを待った。魚が針に掛かったら、水圧の変化で魚が傷つかないように（例えば、眼球や胃の突出、脱腸など）ゆっくりと糸を巻き上げた。採集後（図 1）、すみやかに水を張ったバケツに収容し、浮袋が膨張した魚は、注射針を用いて浮袋内のエアを抜いた。水族館に搬入後、魚病用薬剤エルバージュを適量加えた水槽で薬浴を行った。薬浴後、予め水温調節を行った水槽に収容して飼育を開始した。

今回、3 月に 2 回の採集調査を行い、ハナダイ類をはじめとした色とりどりの深海性魚類 12 種類が採集された。その中には和歌山県未記録の 2 種も含まれており、上出来の調査であった。

今後の展望：今回採集された魚類のうち、バラハナダイは一部脱腸が確認されたものの、ほとんどの個体が状態良く採集することができた（図 2）。現在バックヤード水槽にて飼育中であり、今後は長期飼育の確立や常設展示を目指していきたい。

次に加圧水槽の開発について、今回採集されたほとんどの魚類で眼や胃の突出が確認され、生存させるのが困難であった。深海性魚類の飼育展示を精力的に行っている沖縄美ら海水族館では、これらの治療を行うために重力式加圧水槽が使用されている（佐藤ほか，2023）。今後、当館においても生存率を上げるためには簡易的な小型加圧水槽の開発が必要であると考えられた。

最後に、広大な深海域を有する串本沖には多種多様な深海性魚類が生息していると考えられ、魚類相を解明するには今後も継続して調査を行っていく必要がある。また、採集された魚類の飼育技術の向上や、これまで展示例のない魚類の展示を目指すなど、課題はまだまだ山積みである。

図 1．深海小物釣りの採集風景

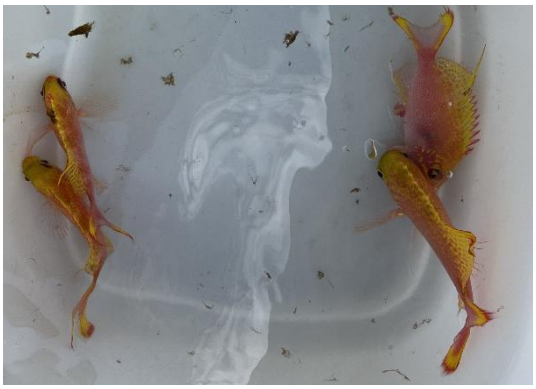


図 2．採集されたバラハナダイ

串本で確認されたクラゲ 2 種の紹介

中村　公一

2016 年、本誌において串本で出現したクラゲについて報告している（Vol.45, p.10, p.26）。その時点では 44 種のクラゲが確認されていたが以降も様々なクラゲが出現しており、中には本州初記録の可能性がある種も見つかっている（Vol.52, p.2）。本報では最近、町内で出現したヒドロ虫綱のクラゲ 2 種を紹介したい。

ヤワラクラゲ　*Laodicea undulata*

（軟クラゲ目ヤワラクラゲ科ヤワラクラゲ属）

傘径 2cm ほど、傘は透明で傘高の低いお皿型をしている（図 1. A, B）。傘縁に多数の触手を持ち、その間に交互に平衡棍を備える。生殖巣は波打つような薄い板状で、胃腔部から 4 本の放射管に沿って形成される。また、口柄支持柄は持っていない（図 1. C）。

日本では本州中部から南西諸島までの太平洋側に広く分布しているとされ、世界では太平洋以外にもインド洋、大西洋、地中海などにも分布しているという。

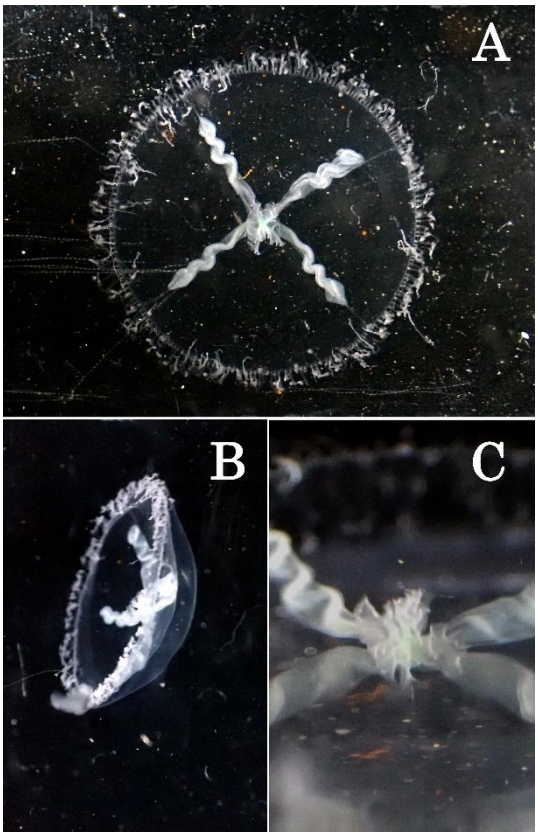


図 1. ヤワラクラゲ

カミクラゲ　*Spirocodon saltator*

（花クラゲ目キタカミクラゲ科カミクラゲ属）

傘は円筒形で最大で 10cm 程になるとされている。放射管は 4 本で、主管から左右に枝状の管が派生する。傘縁触手は均等にある訳ではなく、傘縁の 8 か所から多数の触手が束状に生えている（触手群）。生殖巣は 4 つで、その形はコイル状と他のクラゲにはない独特な形をしている。

本州から九州にかけて広く分布しており、春先になると港湾内などに漂う姿を観察することが出来るいたって普通の種ではあるが、串本での出現記録としては 2017 年に町内の港湾を回っている際にそれらしきクラゲを見かけた（水深が深く採集できず）のみに留まっていた。しかし先日、未成熟個体ではあるが町内で採集された個体が当館に搬入されたことで、正式な記録として報告するに至った。

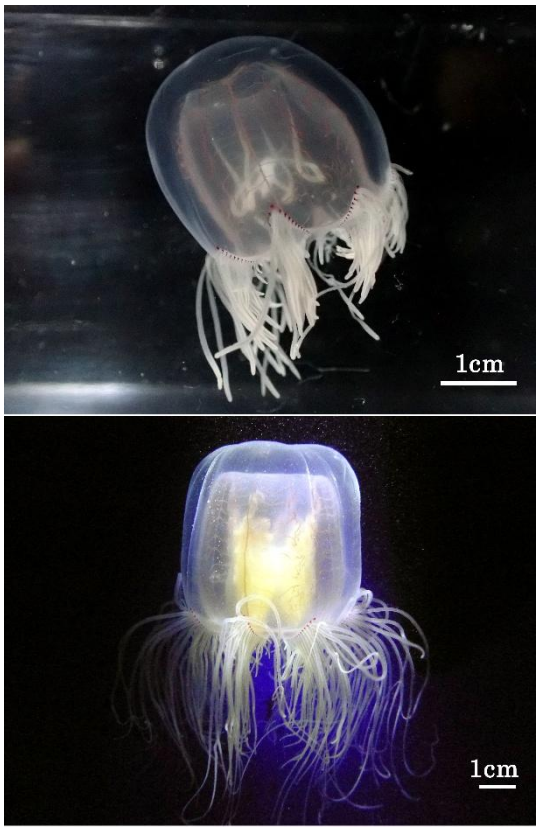
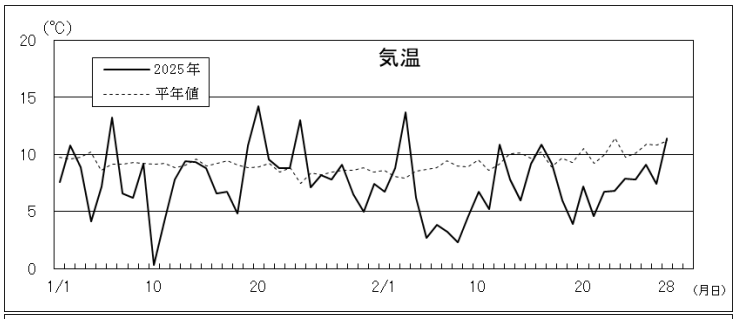
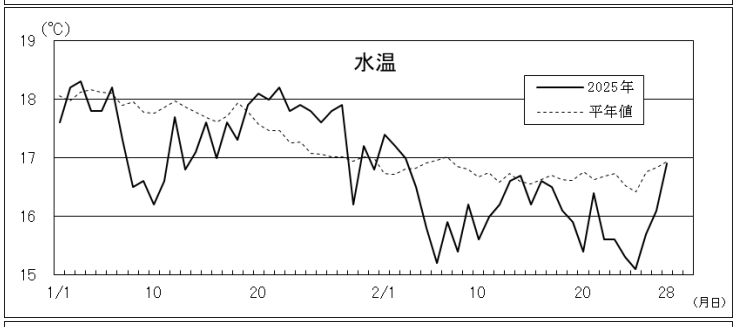
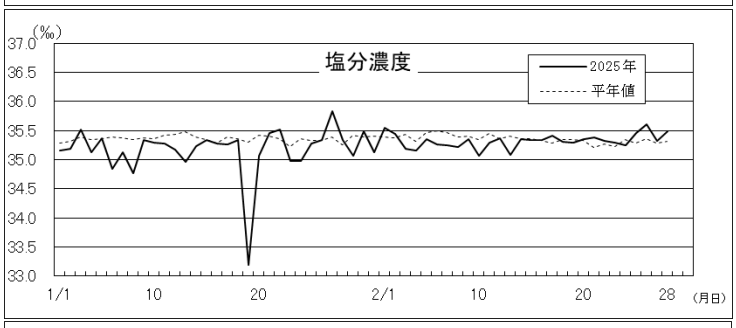
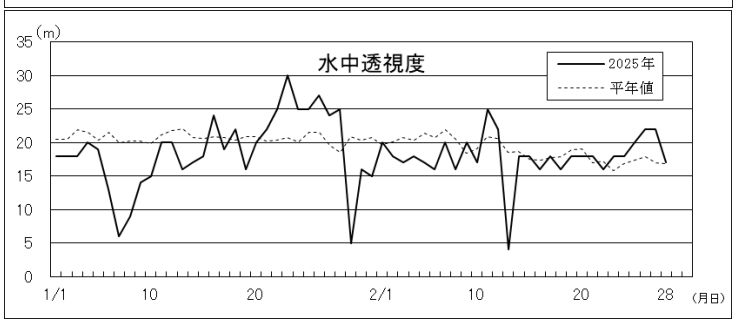


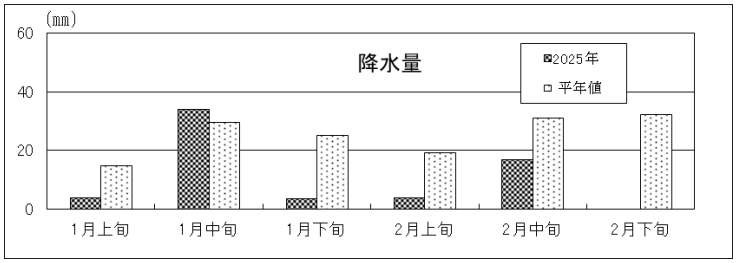
図 2. 上：今回採集されたカミクラゲ
下：2014 年に日高郡で採集した成熟個体











錆浦定置観測結果（月平均値と平年値比）

	1月		2月	
気　温	8.0℃	−1.0℃	7.0℃	−2.5℃
水　温	17.1℃	−0.5℃	16.1℃	−0.6℃
塩分濃度	35.2‰	−0.2‰	35.3‰	−0.1‰
水中透視度	18.7m	−1.9m	18.0m	−0.8m
月間降水量	41.2㎜	−28.1㎜	20.7㎜	−61.6㎜

錆浦の海から

森　美枝

3 月のある日、ハヤブサに襲われた鳩をスタッフが保護した。その鳩には足環が付いており、その番号からレース鳩であることが分かった。鳩の胸の辺りには血がついており、飛べない様子だったため、足環の連絡先に電話すると、飼い主につながり、鳩は無事迎えに来た車で家路についた。

レース鳩は伝書鳩を競技用に育てた鳩で、千km以上離れた場所からでも自分の家に戻ってくることができる。この優れた帰巣本能は、鳩が地磁気を感知する体内コンパスを持っているからだといわれる。体内コンパスといえば、ウミガメも広い海から生まれた場所に戻ってくるために地磁気を利用しているといわれる。ただ、伝書鳩にしてもウミガメにしても、帰巣本能については未解明な部分も多い。

鳩レースは、鳩舎から百km～千km離れた場所で一斉に鳩を放ち、鳩舎に帰ってくるまでの速度を競う競技だ。しかし、実際千kmレースでは、鳩の帰還率は 1 割程度なのだそう。猛禽類に襲われて命を落とす鳩が多いという。鳩もウミガメ同様、過酷な環境を生きている。鳩を見送りながら、自然の強さと厳しさを学んだ一日だった。

マリンパビリオン　Vol.54, No.2　通巻 499 号

発行日　　令和 7 年 4 月 11 日

編集兼発行人

〒649-3514　和歌山県東牟婁郡串本町有田 1157

（株）串本海中公園センター

電話＆FAX　0735-62-4875

ホームページ　http://www.kushimoto.co.jp/

（本誌は上記からも無料配信中）